

平成25年度長崎大学がんプロ養成基盤推進プラン離島・僻地病院実習

実習生：内藤 淑子（福岡大学）

実習先：長崎県上五島病院

実習期間：平成26年3月3日（月）～3月28日（金）

実習生感想：

上五島病院での実習

医師になって6年目ですが、がんプロの離島・僻地病院実習を通して1か月間上五島病院で実習をさせて頂く機会を得ることができました。

上五島病院は約2万人の新上五島町の唯一の入院施設がある病院です。他の入院施設へは船に乗っていかなければならないという立地条件です。よって受診依頼のあった症例は24時間全て受け入れなければならないという厳しい条件にある病院でした。そして医師の数は多くはなく仕事は夜遅くまで行われているのが現状です。真夜中に心肺停止の症例が救急車で運ばれて来れば、当直医だけでなく病院に残っている全ての先生が対応します。大変な仕事環境ですが、皆仲が良く、楽しく働いていました。

仕事の合間に食事を食べに行くことが多くありました。

五島は魚以外にも野菜、肉も美味です。

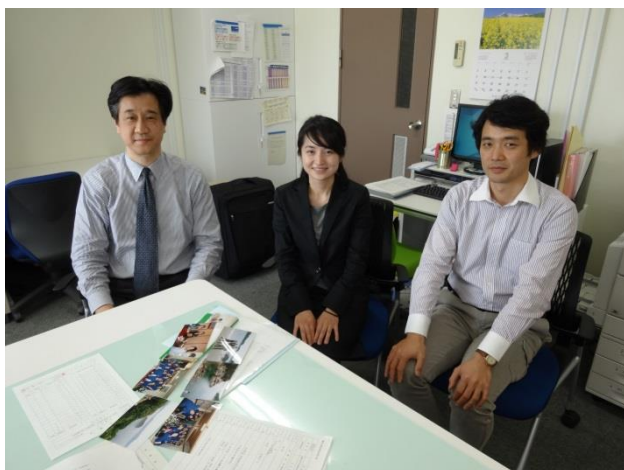


実習は、主に入院患者の診療をさせて頂きました。内科は科に分かれていませんので、がんだけでなく心不全や腎不全の症例も担当することができました。この患者さんはよく

お話をすることが多いように思いました。ベッドサイドに行くと、椅子に座るよう勧められ、話をすることを求められます。「どこから来たかね」から始まり、時には人生のアドバイスも頂きました。このような中、患者と何気ない会話をするには患者をみるにあたって土台となる要素だと気付かされました。いままでは患者さんが入院すると、まず病歴と身体所見をとることを念頭に患者さんの所へ行っていました。そうではなく、まず普通の会話から始めるようにしました。するとその後の検査、治療の過程が円滑になり随分楽になったのです。これは実習の中で得た最も大きな収穫の一つでした。

他に総合診療内科の外来も何度かさせて頂きました。胃カメラによるがん検診、気管分岐部リンパ節腫大に対する気管支鏡下の生検、早期胃がんの内視鏡的粘膜下層剥離術、肝細胞がんのラジオ波焼灼療法にも携わりました。急性心筋梗塞の本土への転院に際し、ヘリコプターまで救急車で搬送を行う機会もありました。

1か月の実習はあっという間ですが、離島という全く異なる環境で仕事できたことは他では経験できなかった内容だと思います。



実習が終了し船で長崎本土へ戻ると、芦澤教授を始め臨床腫瘍学の先生方と写真をみながらの報告会があります。私は長崎大学出身ではない初めての实習生でしたが、それは全く問題ありませんでした。

医局に入局して4年目ですが、このような体験をさせて頂きました。1か月間通常の仕事から離れて、実習をするのは調整が必要で、他の先生方の協力があったからこそできました。この場を借りて深く御礼を申し上げます。

実習で得たことを生かしなが、頑張っていこうと思います。